ぢしばりの花

歌集　水島清子

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

初版発行　昭和四十三年十月　一　日
再版発行　昭和四十四年五月二十日
歌　集　ちしばりの花（非売品）
著　者　水　島　清　子
埼玉県東松山市本町一丁目十番五号
発行者　石　井　俊　夫
発行所　東洋出版印刷株式会社
東京都文京区小石川二の十七の三
電話（八一三）七三一一（代）～四

しばりの花

雨風に打たれひたすら地を這ひて
あはあはと咲くぢしばりの花

大連州国際学院図書館
藏书
30083

歌集　水島清子

発行所　東洋出版印刷株式会社

歌集「ちしばりの花」序

この歌集は昭和三十八年から最近作まで近々五ケ年の作品集で且つ作者の発心の歌を含めているということですが、水島清子さんとわたくしとの出逢いはずつと近いように思います。「さきたま」短歌会が毎月開く浦和市の公民館へ、初めて出詠されたのは四十年四月でしたが

就職の吾娘のトランクさげゆける教師をやまひの床に見送る

そのような歌の通り御病床だつたのでしよう。御歌のみで出席はされず十二月頃歌会で初めてお目にかかつたのでしようか。「さきたま」十一月号から（41・11）出詠され以後三ケ月に一度御作を拝見しておりますが、御作から御身辺をほぼ想像するのみで、水島さんが朝日

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

新聞埼玉版の常連投稿家ということも聞き知つてはいましたが、わたくしは長年毎日新聞ばかりみていて朝日歌壇には縁が遠かつたのでした。それでも四十一年三月発表の朝日埼玉版四十年度短歌賞に準賞を得られた。

めいめいに勤め持ちゐるわが家族話したきこと黒板に書く

の御作や秋の県歌人会入選の

夢なれば母の面輪も花の色も見ゆるといひぬ盲の少女は

など記憶にあります。水島さんが投稿歌人でなかなか御活躍の方だということは「さきたま」の同じ投稿仲間での話題で存じておりました。この度、集の序文をとの御希みをうかがいましたとき、寧ろ朝日歌壇の選者の方々の方がわたくしより身近に毎週水島さんの御作に接しておられるのではないかと思つたのは右の理由からでした。三十一

文字を短歌の形式に綴るのは日本語の音韻から存外入り易いものではありますが、困難な御境遇に耐えて水島さんが心のたけを五年間で励まれた四百首余りの御歌の集は、御歌の全部なのでしようか。つねに歌う姿勢で眺められる一木一草は即、歌材となつて進歩を早められた御様子がありありと分り、お母様の集を出して上げたいと云われるお子様方のひたむきさまでが伝わつてまいります。けれど敢えて申上げますならば水島さんの御歌はこれから始まるのではないかと思われるのです。この集を枕に、二集、三集ごとに輝きを増される御作への御精進を期待して序に代えたいと存じます。

四三・五・三〇

紺野幸子

目次（連作のみ）

母　一〇
紅葉　三四
青年の家　四〇
如月抄　四四
ふるさと　四六
水無月の城趾　五四
父逝く　六八
長女嫁ぐ日　九〇
下田紀行　九四

題字　長島翠葉
カット　永井栄一

はたちの吾娘　九八
初詣で　一〇〇
指病みぬ　一一二
紫陽花見つむ　一一四
無名戦士の墓　一一六
家族旅行　一一八
杖もつ所長　一二四
炬火発つ山　一二六
長野紀行　一三四
越生梅林　一四六
滝山城趾　一五四
後記

昭和三十八年

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

母

遠足に附添へばあまりにはしやぐ子よ勤めも
つ身は常に詫びたし

縋りつくどの手も小さし母ひとりいばらの道
に耐へむと言ふに

母の苦労知りて成長せし子らは別れし父のことには触れず

成長せし子らの勧めに新調の服をまとひて職場の旅行す

貧しきに耐へて育てし母の手もみな離れゆきて殻となるかも

夕昏れて月見草の葉先ゆらぎをり咲き競ひあふ花火のごとく

想ひ出のふるさとの小川いまはなくメダカ、ホタルら見ることもなし

傷負ひてベットに横たひはや五日焦りしのみに今日も終れり

生垣の根元に群れて悩み濃き日に植えし秋海
棠は競ひ咲きそむ

駅へ急ぐ足どり今朝はゆるみたり澄みし空気
の美味さに酔ひて

ほほづきを揉みてくちびる触れたれば幼き想
ひ出めぐりてやまず

四輪の通勤車ふえてわが庁の自転車置場はせばめられゆく

ふつくらと干しし布団にねてみたし日暮れて帰る孤独のわれは

根分けせし春蘭みれば来む春を待つごと小さき蕾もちをり

山頂の巌にわれら憩ひたり絵画きゐる人に視線むけつつ

焚火せるみちのかたへを自転車に過ぐる束の間ぬくもり伝ふ

サルビアの朱きいろ師走のいまもなお褪せず朝夕にわれをなぐさむ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.